

活動名	「大横町通りに図書館がやってくる!!」
-----	---------------------

貢献・連携類型	1. 地域連携・協力
---------	------------

報告者	建築学科	学科	職位	教授	氏名	山中 新太郎
-----	------	----	----	----	----	--------

概要（実施したこと、進捗状況等）について記述してください。

令和4年度「下田市における歩車共存によるウォーカブルなまちの調査研究業務」では、旧町のまちづくりのあり方や歩車の分離が検討されました。下田銀座といわれた大横町商店街（大横町通り）は昔ながらの下田の風情が残る一方で、車の流入が多く歩行者には快適な道路空間ではありません。観光客へのGPS調査では、ペリーロードを起点とした観光客の多くが大横町通りでまち歩きを諦めてしまう実態が明らかになりました。まちなかへの人の流れを作るためには、大横町通りの魅力向上が重要な課題になっていました。こうした背景のもと、大横町通りの道路空間活用を図る社会実験として、未来の下田図書館プロジェクト「大横町通りに図書館がやってくる!!」を開催しました。この社会実験では大横町通りで通行規制を行い、テーマを決めて図書館の本を道路上や周辺の店舗に配置。商店街や市民らの協力のもと、さまざまなブックイベントを開催しました。この活動によって、①社会実験の企画を行うことで新しい図書館計画へ向けた建築・まちづくりの実践的な学びを行うことができたこと、②商店街を通行規制して社会実験を行うことによる周辺道路への負荷や人流の変化を測定することで、都市の交通問題についての実践的な学びを行うことができたこと、などの成果を得ました。

今後の展望、本活動で得られた成果を記述してください。

この社会実験では、次の2点を検証し、今後のまちづくりへ向けた基礎的な資料としました。

①参加する市民や商店街へのアンケート調査から、まちじゅう図書館や「未来の下田図書館」へ向けた小さな図書館拠点の課題や可能性を検証したこと。

②社会実験開催時と開催しない週末の旧町内の車や人の量を計測・比較し、将来的な歩車分離や道路空間活用へ向けて、通行規制やイベント時の交通工学的な課題や可能性を検証したこと。

社会実験は市内外で大きな注目を集め静岡放送、静岡新聞、伊豆新聞などで報道されました。今後も新しい下田図書館へ向けた研究や地域活動を継続する予定です。

対象・相手先	静岡県下田市
--------	--------

協定書・依頼の有無（具体的に記入）
下田市受託研究「令和4年度旧下田町地区交通規制社会実験調査業務」

実施日時	令和5年9月23日～9月24日 12時～16時
------	----------------------------

場所	静岡県下田市
----	--------



本学からの参加者
建築・山中新太郎、交通・伊東英幸、藤井敬宏、情報・五味悠一郎、その他（文理学部・田中絵里子准教授、駒沢女子大学・小川弾准教授）、学生院長約30名

